

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領(1998年9月)に準拠して作成

外皮用殺菌消毒剤

日本薬局方 ベンザルコニウム塩化物液

ホエスミン[®]消毒液10%

10% Hoesmin[®] Disinfectant Solution

剤形	液剤(10%)
規格・含量	1mL中 日局濃ベンザルコニウム塩化物液 50 190.5mg (ベンザルコニウム塩化物として 100mg) 含有
一般名	和名: ベンザルコニウム塩化物液 洋名: Benzalkonium Chloride Solution
製造承認年月日	2009年6月26日
薬価基準収載日	2009年9月25日
発売年月日	1957年9月
製造販売元	製造販売元: マイラン製薬株式会社 販 売: ファイザー株式会社
担当者の連絡先 電話番号・FAX番号	ファイザー株式会社 製品情報センター 学術情報ダイヤル 0120-664-467 FAX 03-3379-3053 医療用製品情報 http://pfizerpro.jp/cs/sv/pfizerpro/di/Page/1259675500452

本IFは2013年1月改訂のラベルの記載に基づき改訂した。
最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ
<http://www.info.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者(以下、MR と略す)等にインタビューし、当該医薬品の評価を行うのに必要な医薬品情報源として使われていたインタビューフォームを、昭和 63 年日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IF と略す)として位置付けを明確化し、その記載方式を策定した。そして、平成 10 年日病薬学術第 3 小委員会によって新たな位置付けと IF 記載要領が策定された。

2. IF とは

IF は「医療用医薬品添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な医薬品の適正使用や評価のための情報あるいは薬剤情報提供の裏付けとなる情報等が集約された総合的な医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

しかし、薬事法の規制や製薬企業の機密等に関わる情報、製薬企業の製剤意図に反した情報及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。

3. IF の様式・作成・発行

規格は A4 判、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体で記載し、印刷は一色刷りとする。表紙の記載項目は統一し、原則として製剤の投与経路別に作成する。IF は日病薬が策定した「IF 記載要領」に従って記載するが、本 IF 記載要領は、平成 11 年 1 月以降に承認された新医薬品から適用となり、既発売品については「IF 記載要領」による作成・提供が強制されるものではない。また、再審査及び再評価(臨床試験実施による)がなされた時点ならびに適用症の拡大等がなされ、記載内容が大きく異なる場合には IF が改訂・発行される。

4. IF の利用にあたって

IF 策定の原点を踏まえ、MR へのインタビュー、自己調査のデータを加えて IF の内容を充実させ、IF の利用性を高めておく必要がある。

MR へのインタビューで調査・補足する項目として、開発の経緯、製剤的特徴、薬理作用、臨床成績、非臨床試験等の項目が挙げられる。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、当該医薬品の製薬企業の協力のもと、医療用医薬品添付文書、お知らせ文書、緊急安全性情報、Drug Safety Update(医薬品安全対策情報)等により薬剤師等自らが加筆、整備する。そのための参考として、表紙の下段に IF 作成の基となった添付文書の作成又は改訂年月を記載している。なお適正使用や安全確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等には承認外の用法・用量、効能・効果が記載されている場合があり、その取扱いには慎重を要する。

目 次

I.	[概要に関する項目]	1
II.	[名称に関する項目]	2
III.	[有効成分に関する項目]	3
IV.	[製剤に関する項目]	4
V.	[治療に関する項目]	6
VI.	[薬効薬理に関する項目]	7
VII.	[薬物動態に関する項目]	8
VIII.	[安全性(使用上の注意等)に関する項目]	10
IX.	[非臨床試験に関する項目]	13
X.	[取扱い上の注意等に関する項目]	14
XI.	[文献]	16
XII.	[参考資料]	16
XIII.	[備考]	16

I. [概要に関する項目]

1. 開発の経緯	1935年 Domagk が第四級アンモニウム塩のある種のものに強力な殺菌力のあることを報告し、I.G.社より Zephirol という名で市販されて以来、急速に注目を集めた。1940年 Kuhn は更に多数の表面活性化合物について詳細な研究を行い、陰電荷を帯びる細菌に陽電荷を帯びる逆性石ケンが吸着され、菌体表面に集積し、菌体たん白を変性させると報告した。第四級アンモニウム塩の一般式が $[\text{C}_6\text{H}_5\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_3)_2\text{R}]^+\text{Cl}^-$ で示されるもののなかで、R が $\text{C}_8\text{H}_{17}\sim\text{C}_{18}\text{H}_{37}$ のアルキル基のものが強い殺菌力とすぐれた洗浄作用を有することがわかり、本品が広く用いられている。
2. 製品の特徴及び有用性	

II. [名称に関する項目]

1. 販売名	(1) 和 名：ホエスミン [®] 消毒液 10% (2) 洋 名：10% Hoesmin [®] Disinfectant Solution (3) 名称の由来：
2. 一般名	(1) 和 名(命名法)：ベンザルコニウム塩化物液 (2) 洋 名(命名法)：Benzalkonium Chloride Solution
3. 構造式又は示性式	
4. 分子式及び分子量	$[C_6H_5CH_2N(CH_3)_2R]Cl$ R：C ₈ H ₁₇ ～C ₁₈ H ₃₇ (主として C ₁₂ H ₂₅ 及び C ₁₄ H ₂₉ からなる) C ₂₂ H ₄₀ ClN：354.01
5. 化学名(命名法)	alkylbenzyldimethyl ammonium chloride
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	
7. CAS 登録番号	8001-54-5

Ⅲ. [有効成分に関する項目]

1. 有効成分の規制区分	該当しない
2. 物理化学的性質	<p>(1) 性状¹⁾ 本品は白色～黄白色の粉末又は無色～淡黄色のゼラチン状の小片、ゼリー様の流動体若しくは塊で、特異なおいがある。 本剤に水を加えた液は振ると強く泡立つ。</p> <p>(2) 溶解性¹⁾ 水又はエタノール(95)に極めて溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。</p> <p>(3) 吸湿性 該当資料なし</p> <p>(4) 融点(分解点)、沸点、凝固点 該当資料なし</p> <p>(5) 酸塩基解離定数 該当資料なし</p> <p>(6) 分配係数 該当資料なし</p> <p>(7) その他の主な示性値¹⁾ 水分：15.0%以下(容量滴定法、直接滴定) 強熱残分：0.20%以下(1g)</p>
3. 有効成分の各種条件下における安定性	日局ベンザルコニウム塩化物液 10%：室温、遮光容器にて 5 年間安定である。
4. 有効成分の確認試験法	日局「ベンザルコニウム塩化物」確認試験法に準ずる。
5. 有効成分の定量法	日局「ベンザルコニウム塩化物」定量法に準ずる。

IV. [製剤に関する項目]

<p>1. 剤形</p>	<p>(1) 投与経路 外用にのみ使用</p> <p>(2) 剤形の区別、規格及び性状 剤形：液剤 性状：無色～淡黄色澄明の液で、特異なにおいを有する外用液剤</p> <p>(3) 製剤の物性 該当資料なし</p> <p>(4) 識別コード なし</p> <p>(5) 無菌の有無 該当資料なし</p> <p>(6) 酸価、ヨウ素価等 該当しない</p>
<p>2. 製剤の組成</p>	<p>(1) 有効成分(活性成分)の含量 1mL 中 日局濃ベンザルコニウム塩化物液 50 を 190.5mg 含有 (ベンザルコニウム塩化物として 100mg) 含有</p> <p>(2) 添加物 ホウ砂</p>
<p>3. 用時溶解して使用する製剤の調製法</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>5. 製剤の各種条件下における安定性</p>	<p>室温で3年間は安定である。</p>
<p>6. 調製法及び溶解後の安定性</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>7. 他剤との配合変化(物理化学的変化)</p>	<p>石ケン、過マンガン酸カリウム、過酸化物、白陶土、酸化亜鉛、サッカリン、サポニン、サリチル酸フェニル、酒石酸、クエン酸、ホウ酸(5%以上)、ヨウ素、ヨウ化カリウム、硝酸銀、硫酸亜鉛、硫酸ピロカルピン、ラウリル硫酸ナトリウム、ケイ酸塩類、一般に各種陰イオンと配合禁忌が多い。なお鏡器具、眼科用器具、塗装カテーテル、合成ゴム製品には使用しない¹⁾。</p>
<p>8. 混入する可能性の夾雑物</p>	<p>該当資料なし</p>

9. 溶出試験	該当しない
10. 生物学的試験法	該当資料なし
11. 製剤中の有効成分の確認試験法	日局「ベンザルコニウム塩化物液」確認試験法に準ずる。
12. 製剤中の有効成分の定量法	日局「ベンザルコニウム塩化物液」定量法に準ずる。
13. 力価	該当しない
14. 容器の材質	(500mL) ボトル：ポリエチレン キャップ：ポリプロピレン ラベル：ポリエチレン (18L) 容器（バックインボックス）ポリエチレン キャップ：ポリエチレン コック：ポリエチレン、ポリプロピレン 箱：ダンボール
15. 刺激性	該当資料なし
16. その他	

V. [治療に関する項目]

<p>1. 効能又は効果 用法及び用量</p>	<p>1. 手指・皮膚の消毒 通常石けんで十分に洗浄し、水で石けん分を十分に洗い落した後、ベンザルコニウム塩化物 0.05～0.1%溶液（本剤の 100～200 倍希釈液）に浸して洗い、滅菌ガーゼあるいは布片で清拭する。術前の手洗いの場合には 5～10 分間ブラッシングする。</p> <p>2. 手術部位（手術野）の皮膚の消毒 手術前局所皮膚面をベンザルコニウム塩化物 0.1%溶液（本剤の 100 倍希釈液）で約 5 分間洗い、その後ベンザルコニウム塩化物 0.2%溶液（本剤の 50 倍希釈液）を塗布する。</p> <p>3. 手術部位（手術野）の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒 ベンザルコニウム塩化物 0.01～0.025%溶液（本剤の 400～1000 倍の希釈液）を用いる</p> <p>4. 感染皮膚面の消毒 ベンザルコニウム塩化物 0.01%溶液（本剤の 1000 倍希釈液）を用いる。</p> <p>5. 医療用具の消毒 ベンザルコニウム塩化物 0.1%溶液（本剤の 100 倍希釈液）に 10 分間浸漬するか、又は厳密に消毒する際は、器具を予め 2%炭酸ナトリウム水溶液で洗い、その後ベンザルコニウム塩化物 0.1%溶液（本剤の 100 倍希釈液）中で 15 分間煮沸する。</p> <p>6. 手術室・病室・家具・器具・物品等の消毒 ベンザルコニウム塩化物 0.05～0.2%溶液（本剤の 50～200 倍希釈液）を布片で塗布・清拭するか、又は噴霧する。</p> <p>7. 臍洗浄 ベンザルコニウム塩化物 0.02～0.05%溶液（本剤の 200～500 倍希釈液）を用いる。</p> <p>8. 結膜囊の洗浄・消毒 ベンザルコニウム塩化物 0.01～0.05%溶液（本剤の 200～1000 倍希釈液）を用いる。</p>
<p>2. 臨床成績</p>	<p>(1) 臨床効果 該当資料なし</p> <p>(2) 臨床薬理試験：忍容性試験 該当資料なし</p> <p>(3) 探索的試験：用量反応探索試験 該当資料なし</p> <p>(4) 検証的試験</p> <p>1) 無作為化平行用量反応試験 該当資料なし</p> <p>2) 比較試験 該当資料なし</p> <p>3) 安全性試験 該当資料なし</p> <p>4) 患者・病態別試験 該当資料なし</p> <p>(5) 治療的使用</p> <p>1) 使用成績調査・特定使用成績調査・製造販売後臨床試験 該当しない</p> <p>2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要 該当しない</p>

VI. [薬効薬理に関する項目]

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群									
2. 薬理作用	<p>(1) 作用部位・作用機序 本剤は使用濃度においてグラム陽性菌、グラム陰性菌、真菌類等には有効であるが、細菌の芽胞（炭疽菌、破傷風菌等）、結核菌及び大部分のウイルスに対する効果は期待できない。</p> <p>(2) 薬効を裏付ける試験成績 in vitro 試験³⁾ フェノール係数</p> <table border="1" data-bbox="564 667 1358 916"> <thead> <tr> <th></th> <th>ホエスミン消毒液 10%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>黄色ブドウ球菌 (Staphylococcus aureus)</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>大腸菌 (Escherixhia xoli)</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>緑膿菌 (Pseudomonas aeruginosa)</td> <td>48 以下</td> </tr> </tbody> </table>		ホエスミン消毒液 10%	黄色ブドウ球菌 (Staphylococcus aureus)	200	大腸菌 (Escherixhia xoli)	110	緑膿菌 (Pseudomonas aeruginosa)	48 以下
	ホエスミン消毒液 10%								
黄色ブドウ球菌 (Staphylococcus aureus)	200								
大腸菌 (Escherixhia xoli)	110								
緑膿菌 (Pseudomonas aeruginosa)	48 以下								

VII. [薬物動態に関する項目]

<p>1. 血中濃度の推移、測定法</p>	<p>(1) 治療上有効な血中濃度 該当しない</p> <p>(2) 最高血中濃度到達時間 該当しない</p> <p>(3) 通常用量での血中濃度 該当しない</p> <p>(4) 中毒症状を発現する血中濃度 該当しない</p>
<p>2. 薬物速度論的パラメータ</p>	<p>(1) 吸収速度定数 該当しない</p> <p>(2) バイオアベイラビリティ 該当しない</p> <p>(3) 消失速度定数 該当しない</p> <p>(4) クリアランス 該当しない</p> <p>(5) 分布容積 該当しない</p> <p>(6) 血漿蛋白結合率 該当しない</p>
<p>3. 吸収</p>	<p>粘膜、創傷面又は炎症部位への使用時、吸収されることがある²⁾</p>
<p>4. 分布</p>	<p>(1) 血液－脳関門通過性 該当しない</p> <p>(2) 胎児への移行性 該当しない</p> <p>(3) 乳汁中への移行性 該当しない</p> <p>(4) 髄液への移行性 該当しない</p> <p>(5) その他の組織への移行性 該当しない</p>
<p>5. 代謝</p>	<p>(1) 代謝部位及び代謝経路 該当しない</p> <p>(2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種 該当しない</p> <p>(3) 初回通過効果の有無及びその割合 該当しない</p> <p>(4) 代謝物の活性の有無及び比率 該当しない</p> <p>(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ 該当しない</p>

<p>6. 排泄</p>	<p>(1) 排泄部位 該当しない</p> <p>(2) 排泄率 該当しない</p> <p>(3) 排泄速度 該当しない</p>
<p>7. 透析等による 除去率</p>	<p>(1) 腹膜透析 該当しない</p> <p>(2) 血液透析 該当しない</p> <p>(3) 直接血液灌流 該当しない</p>

VIII. [安全性(使用上の注意等)に関する項目]

1. 警告内容とその理由	ラベルに記載なし									
2. 禁忌内容とその理由	ラベルに記載なし									
3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由	ラベルに記載なし									
4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由	ラベルに記載なし									
5. 慎重投与内容とその理由	ラベルに記載なし									
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	<p>(1) 本剤は必ず希釈し、濃度に注意して使用すること。 (2) 炎症又は易刺激性の部位（粘膜、陰股部等）に使用する場合には、通常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。 (3) 深い創傷又は眼に使用する場合は希釈液としては、注射用水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用いないこと。</p>									
7. 相互作用	ラベルに記載なし									
8. 副作用	<p>本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>頻度</td> <td>頻度不明</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>過敏症^{注)}</td> <td>発疹、そう痒感等</td> <td></td> </tr> </table> <p>注) このような場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。</p>		頻度	頻度不明	種類			過敏症 ^{注)}	発疹、そう痒感等	
	頻度	頻度不明								
種類										
過敏症 ^{注)}	発疹、そう痒感等									
9. 高齢者への投与	ラベルに記載なし									
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	ラベルに記載なし									
11. 小児等への投与	ラベルに記載なし									

<p>12. 臨床検査結果に及ぼす影響</p>	<p>本剤で消毒したカテーテルで採取した尿はスルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。</p>
<p>13. 過量投与</p>	<p><参考> 中毒⁴⁾ (症状) 消化器症状：悪心、嘔吐、口腔・咽頭の灼熱感、流涎、心窩部痛 循環器症状：低血圧、ショック、遷延すれば腎不全 中枢神経・筋症状：不穏、昏迷、痙攣、脱力、筋弛緩、呼吸筋麻痺 呼吸器症状：努力性呼吸、チアノーゼ、窒息、咽頭浮腫、肺水腫 その他：眼調節障害、多尿、便秘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くはすみやかに回復 ・摂取後 1～2 時間後に死亡することもあり ・皮下注では局所血栓形成により壊死 <p>(治療法) 希 積：水、牛乳、卵白の内服（少なくとも摂取量の 100 倍以上） 吸 着：薬用炭、万能解毒薬（活性炭 2：酸化マグネシウム 2：タンニン酸 1 の混合末）の投与 胃洗浄：2～3L の微温湯で 1 回 250mL 以下で行う 緩和剤：牛乳、卵白、植物油を 1～2 時間ごとに内服 マグネシア乳（酸化マグネシウム 10＋水 100）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痙攣には短時間型バルビタール ・筋力低下に注意し、要すれば気管内挿管、補助呼吸 ・ショックに対し補液と血管作働薬（ドーパミン） ・強制利尿は脳浮腫を増強させる危険があり、禁忌 ・腎不全に血液透析 ・高濃度の液で皮膚が汚染されたら、水と石けんで洗う <p>塩類下剤：硫酸マグネシウム 30g を約 120mL に溶かして投与（中毒起こすことがあるので、下痢が起きないときは注意）</p>
<p>14. 適用上及び薬剤交付時の注意 (患者等に留意すべき必須事項等)</p>	<p>(1) 人体</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 投与経路 経口投与しないこと。浣腸には使用しないこと。 2) 使用時 ア. 原液又は濃厚液が眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には水でよく洗い流すこと。 イ. 濃厚液の使用により、皮膚・粘膜の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。 ウ. 粘膜。創傷面又は炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと（全身吸収による筋脱力を起こすおそれがある）。 エ. 密封包帯、ギプス包帯、パックに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。 <p>(2) その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 調整方法 ア. 希釈液として塩類含量の多い水又は硬水を用いる場合には、通常用いる濃度の 1.5～2 倍の溶液として使用すること。

	<p>イ. 繊維、布（綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等）は本剤の成分であるベンザルコニウム塩化物を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。</p> <p>2) 使用時</p> <p>ア. 血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している医療器具等に用いる場合は、十分に洗い落としてから使用すること。</p> <p>イ. 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。</p> <p>ウ. 皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。</p> <p>3) 器具等材質</p> <p>ア. 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等への使用は避けることが望ましい。</p> <p>イ. 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合は、腐蝕を防止するためにベンザルコニウム塩化物 0.1%溶液に 0.5～1.0%の亜硝酸ナトリウムを添加すること。</p> <p>ウ. 皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので、使用しないこと。</p>
15. その他の注意	ラベルに記載なし
16. その他	

Ⅷ. [非臨床試験に関する項目]

1. 一般薬理	該当資料なし
2. 毒性	<p>(1) 単回投与毒性試験⁴⁾ 急性毒性 LD₅₀ ラット(経口) : LD₅₀ 445mg/kg ヒト(経口) : LD₅₀ 50~500mg/kg 推定致死量 1~3g</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注射や子宮内注入では毒性強く、5~15mg/kg で死亡 ベンザルコニウム塩化物 10%液を、20mL2 才児が誤飲して死亡あり(15分後) ・100~400mg/kg を経口服用し、数時間内に死亡した例あり <p>(2) 反復投与毒性試験 該当資料なし</p> <p>(3) 生殖発生毒性試験 該当資料なし</p> <p>(4) その他の特殊毒性 該当資料なし</p>

X. [取扱い上の注意等に関する項目]

1. 有効期間又は使用期限	使用期限：5年(容器に表示の使用期限内に使用すること)
2. 貯法・保存条件	気密容器、室温保存
3. 薬剤取扱い上の注意点	薬局での取り扱い、薬剤交付時の注意(患者等に留意すべき必須事項等) 「Ⅷ. 安全性(使用上の注意等)に関する項目 14. 適用上の注意」の項 参照
4. 承認条件	該当しない
5. 包装	500mL、18L
6. 同一成分・同効薬	同一成分薬：オスバン 10%消毒剤 逆性石鹼液 10%「NP」他 同 効 薬：濃ベンザルコニウム塩化物液 50
7. 国際誕生年月日	該当しない
8. 製造承認年月日及び承認番号	ホエスミン消毒液 10%として 製造承認年月日：2009年6月26日 承認番号：22100AMX01146000 ホエスミンとして 製造承認年月日：1986年1月20日 承認番号：16100AMZ00611000
9. 薬価基準収載年月日	ホエスミン消毒液 10%として 2009年9月25日 ホエスミンとして 1961年1月1日
10. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容	該当しない
11. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	再評価結果公表年月(最新)：1982年8月1日

12. 再審査期間	該当しない								
13. 投与制限医薬品に関する情報	本剤は、厚生労働省告示第99号(平成14年3月18日付)において、投与期間制限医薬品に該当しない。								
14. 厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	<table border="1" data-bbox="525 495 1383 611"> <thead> <tr> <th data-bbox="525 495 778 566">HOT 番号</th> <th data-bbox="778 495 1107 566">厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード</th> <th data-bbox="1107 495 1383 566">レセプト電算コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="525 566 778 611">105801769</td> <td data-bbox="778 566 1107 611">261670GQ1638</td> <td data-bbox="1107 566 1383 611">620580110</td> </tr> </tbody> </table>			HOT 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算コード	105801769	261670GQ1638	620580110
HOT 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算コード							
105801769	261670GQ1638	620580110							
15. 保険給付上の注意	特になし								

X I. [文 献]

1. 引用文献	1) 第六改正日本薬局方解説書：C-4532，廣川書店，2011 2) JPDI 2001（じほう） 3) 社内資料（薬効薬理試験資料） 4) 薬・毒物中毒救急マニュアル改訂3版（医薬ジャーナル社）
2. その他の参考文献	

X II. [参考資料]

1. 主な外国での発売状況	
---------------	--

X III. [備 考]

1. その他の関連資料	
2. 学術情報に関するお問い合わせ先	

文献請求先・製品情報お問い合わせ先

ファイザー株式会社 製品情報センター
〒151-8589 東京都渋谷区代々木 3-22-7
学術情報ダイヤル 0120-664-467
FAX 03-3379-3053

製造販売元

マイラン製薬株式会社
〒541-0053 大阪府中央区本町 2 丁目 6

販売

ファイザー株式会社
〒151-8589 東京都渋谷区代々木 3-22-7

